

◆◆◆ 鳩レースに勝つための基本事項 ◆◆◆

- * 良い種鳩(1鳩舎だけではなく、複数鳩舎で実績のあがっている血統の鳩)を導入し、健康状態を良くして、健康な雛を作出する。下記「種鳩の感染症予防、年間プログラム」を参照。
- * 順調に雛を馴致させ、夏場に鍛え上げる。そして、レース期間に入ったら、休養を第一に考える。
- * 種鳩は大事に使い、選手鳩は大胆に使う。予防的投薬は大事だが、それでも病気になった鳩や羽根をぶつけて垂らした鳩(舎外運動等で足を引っ張る鳩)は、主力から外す。
- * 病気になった鳩を治して種鳩に使うべきではない。健康な鳩のみを残していく…。



種鳩の感染症予防、年間プログラム

配合前 (1～2月)

1. 虫下し……塩酸レバミゾール6g/水1ℓ 又はピランデル(例:コンバントリン細粒)1包10羽分(濡らした餌150gに振りかけて投与)、3日連続
2. 抗コクシジウム……スルファモノメトキシシン原末 2.4g/ℓ、又はサルファ剤溶液(例:エクテシン)6ml/ℓ、5日連続
3. コクシジウム消毒……明治ゾール(引火性があるため、自然乾燥)
4. ニューカッスル生ワクチンの点鼻

配合直前

5. 抗サルモネラ・大腸菌……ノルフロキサシン6ml/ℓ、5日連続
* ここ数年、死ごもり・嘴うち・雛の死亡が観られた場合
メトロニダゾール6錠+ノルフロキサシン6ml/ℓ、5～10日連続。
* これでも効果が無い場合
アモキシリン6g+ゲンタマイシン4.5g/ℓ、5～10日連続。
* 最終的に使う薬
硫酸コリスチンを1日2回、水で濡らした餌225g(1羽分15g×15羽)に2gの割合で均一に振りかけて投与する。加えて、ノルフロキサシン液を水1ℓに対して夏2ml、春秋4ml、冬6mlをよく混ぜて飲水投与する。投与期間は5～10日間連続。
6. サルモネラ・雑菌・カビ消毒……アストップ散布後、ガスバーナーで乾燥。
7. 生菌剤……生菌ビタミン6g/ℓ、3日連続投与後、状態を観察して配合。
* サルモネラ汚染鳩舎は、1日1回エサにサトウキビ抽出物含有製剤をまがして与える(1年中の投与が望ましい)。
* 老鳩には、1日1回リゾープス含有製剤+アミノ酸+ビタミンEも与える(巣引き期間中)。
8. 抗トリコモナス……メトロニダゾール4錠/ℓ、5日連続投与後、飲水器消毒。
* 種鳩は抱卵時(1番仔・2番仔……それぞれ)に投与すると効果的。
9. 雛孵化後……ホルサワ2g+サンジョイント2g/ℓ 投与飲水、アミノ酸1g/10羽を餌に混ぜる。
10. ニューカッスル生ワクチンの雛への点鼻……分離雛、24日齢(1番仔・2番仔……それぞれ)

入梅時

11. 呼吸器感染(涙眼・鼻瘤の変色)……酒石酸酢酸タイロシン0.8g/ℓ 3～6日連続

巣引き終了後(7月)

12. 虫下し……塩酸リペルコール2g/ℓ、又はピランテル1包10羽、3日連続
13. 抗コクシジウム……スルファモノメトキシシン原末0.8g/ℓ、又はサルファ剤溶液2ml/ℓ、5日連続
14. コクシジウム消毒……明治ゾール(引火性があるため、自然乾燥)
15. 抗クラミジア・マイコプラズマ等……ドキシサイクリン1.5g/ℓ、5日連続
16. 生菌剤……生菌ビタミン2g/ℓ、3日連続
17. 抗トリコモナス・抗サルモネラ……フラジール2錠+インフェック2ml/ℓ、5日連続
18. 飲水器消毒……漂白剤(ハイター等に浸ける)
19. サルモネラ菌・マイコプラズマ・カビ等の消毒……鳩舎内・清掃用具・履物等に消毒薬(例:アストップ)を散布し、鳩舎内はさらにガスバーナーで乾燥させる。
20. ニューカッスル生ワクチンの点鼻
* 若い種鳩は、NBオイルワクチン0.25～0.3ml筋肉または皮下注射する。老鳩は、生ワクチン点鼻
* サルモネラ菌汚染鳩舎は、1年中サトウキビ抽出物質含有善玉菌(例:スーパーパルビス)を投与する!

選手鳩の感染症予防、年間プログラム

レース前(12月)

1. 虫下し……塩酸レバミゾール6g/水1ℓ、又はピランデル1包(例:コンバントリン細粒)10羽分を濡らした餌150gに振りかけて投与、3日連続
2. 抗コクシジウム……スルファモノメトキシシ原末2.4g/ℓ、又はサルファ剤溶液(例:エクテシン6ml/ℓ)、5日連続
3. コクシジウム消毒……明治ゾール(引火性があるため自然乾燥)
4. 抗クラミジア・マイコプラズマ等……ドキシサイクリン4.5g/ℓ、5日連続
5. サルモネラ・雑菌・カビ消毒……アストップ散布後、ガスバーナーで乾燥
6. 生菌剤……生菌ビタミン6g/ℓ、3日連続投与

春のレース期間中

7. 免疫増強剤……持ち寄り3日前から前日まで、4g/ℓを飲水投与。持ち寄り日は、真水にする(薬を混ぜた水を与えると、のどが渇くため)。
8. ソノウ炎(嘔吐・緑便)……メトロニダゾール4錠+ノルフロキサシン4ml/ℓを600K終了時、レース帰還後3~4日してから5日連続投与して、直ちに飲水器消毒(ハイター等)。その後、生菌ビタミン4g/ℓ、3日連続。

入梅時

9. 呼吸器感染(涙眼・鼻瘤の変色)……酒石酸タイロシン1.6g/ℓ、3~6日連続
*呼吸器感染は、鳩→鳩への感染よりも、糞塵が眼に入ったり、吸い込んで感染することが多いため、投薬直後に鳩舎内を消毒する。

飛ばし込む前(7月初旬)

10. 虫下し……塩酸レバミゾール2g/ℓ又はピランデル1包10羽、3日連続
11. 抗コクシジウム……スルファモノメトキシシ原末0.8g/ℓ、又はサルファ剤溶液2ml/ℓ、5日連続
12. コクシジウム消毒……明治ゾール(引火性があるため自然乾燥)
13. 抗クラミジア・マイコプラズマ等……ドキシサイクリン1.5g/ℓ、5日連続
14. 生菌剤……生菌ビタミン2g/ℓ、3日連続
15. 抗トリコモナス・抗サルモネラ……メトロニダゾール2錠+ノルフロキサシン2ml/ℓ、5日連続
16. 飲水器消毒……飲水器を漂白剤に浸ける。
17. 鳩舎内・清掃用具・履物の消毒……消毒液(例:アストップ)散布。
さらに、鳩舎内はガスバーナーで乾燥・消毒
18. NB2種混合オイルワクチン0.25~0.3ml……筋肉または皮下注射
*NBオイルワクチンが入手できない場合は、ND生ワクチン(3000ドース)を鶏の30倍量4週間隔で2回筋肉または皮下注射する(アルコールは使わない)。
19. 鳩痘生ワクチン……歯ブラシで皮内接種、アルコールは使わない。
*ND生ワクチンを注射した場合は、鳩痘生ワクチンを同時に接種しない。4週間は間をあける。

飛ばし込む時期……毎日アスタキサンチン含有善玉菌製剤(例:スタミナパラビス)を餌に散布、10羽に1g。

夏の酷暑対策……舎外運動後、入舎前に飲水器を外しておく。まず、1羽あたり5g位の餌を与えた後に、レモン、ニンニク、ショウガ等の搾り汁を混ぜた冷水を与える。そして、残りの餌を与える。

秋の合同訓練・レース期間中(9月)

20. 若鳩の嘔吐症候群(鳩アデノウイルス感染症様疾患)等の予防……持ち寄り3日前から前日まで、免疫増強剤2g/ℓを飲水投与。持ち寄り日は、真水にする。
*合同訓練・レースから帰還後は、鳩がバタバタと鳩舎内で飛びたがるまで、舎外運動をストップする。
*餌は1回分を一気に与えずに、3分の1の量をまず与えて、餌の食べ方をじっくりと観察する(特に帰還3~4日後)。餌の食いが悪い鳩がいる場合は、そこで餌をストップする。
*複合善玉菌を毎日与えていると整腸にもよく、また、腸内に善玉菌が多く繁殖していること、悪い病原菌が侵入してきても増殖するスペースがなく、結果、病気の予防になる。
21. 若鳩の嘔吐症候群の治療
上記20を実施しても餌を吐く鳩が出た場合は、メトロニダゾール錠4錠+ノルフロキサシン4ml/ℓを5日間連続投与し、直後に飲水器を消毒する。その後、生菌ビタミン等を数日飲水投与する。
㊦ 餌を吐いている間は、舎外運動をストップし、餌を少なくする。そして、完全に嘔吐が止まったら、餌を少しずつ増やしながら舎外運動も始める。1週間毎の合同訓練の場合は、完全に状態が戻らないことが多いため、1回合同訓練をジャンプして、調整しながら自分で訓練をして次の訓練から参加する。
22. 若鳩の嘔吐症候群の再発
いったん嘔吐が収まっても、再度餌を吐く鳩が出た場合は、制吐剤のドンペリドンまたは、メトクロプラミドと胃粘膜保護薬のセルテプノンを5日間、餌に振り掛けて投与する。